

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 12 月 1 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470202239		
法人名	医療法人 光臨会		
事業所名	あんしんホーム		
所在地	広島県広島市西区庚午中二丁目11番15号 (電話) 082-507-6600		
自己評価作成日	平成27年11月3日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3470202239-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年11月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>医療機関が営むグループホームなので、系列の荒木脳神経外科病院のバックアップを受けて、健康管理や体調不良時の対応などでは、特に信頼をいただいています。日々の生活では、活動性を重んじながら、楽しみ、喜びの多い生活の提供を心がけており、中でも外出行事は頻繁に行い、力を入れています。初詣、梅見、お花見、大衆演劇観覧、マツダスタジアムナイター観戦、宮島紅葉狩り日帰り旅行などなど、入居者さまの希望に応じて、沢山の遊びを実現させることができました。これらの大掛かりな外出以外にも、毎日の散歩や日々のお買い物はもちろん、ちょっとした外食やカフェなどにも、ちょくちょく出かけています。スタッフも一緒に楽しみながら生活を共にするので離職者がとても少なく、ベテラン揃いで安心していただけるサービスも、強みの一つです。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>建物の一階には、同一法人の医療機関があり日常的な健康管理から緊急時の対応まできめ細かく対応できる体制が出来ている。利用者の日々の生活の中で、活動性と自由を重視してケアに当たっている。例えば排泄については、便器に座ると言う動きも生活の中でのリハビリと捉えていることで排泄の成功と身体バランスの維持に繋がっている。また、年に5回程度利用者の希望を重視し、全員で外出できるように、遠方及び近隣への外出企画を立て実施している。日常的な近所の公園や教会への散歩、食材の買出し、犬の散歩などの時間を積極的に取り入れて活動性と自由性を高めている。喜びと楽しみのある生活をして頂きたいという考えから、利用者の遊び心を大切に、職員も一緒に楽しむということが出来るように話し合いを重視している。結果として、離職率が低下している。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日の朝礼や定例のミーティング時などに唱和する他、各自の理解が深まる様に理念にまつわる意見討論の場を設けている。文面の丸覚えではなく、スタッフ一人ひとりが感じて考えることが大切と考え、勤務後に話し込んでしまうこともよくある。	毎朝の朝礼には何人かの入居者も出席し、その中で今日の目標など、入居者の読み上げに続いて職員が唱和することで共通理解を深めている。覚えることが重要ではなく、いかに実践していくかが大切であるという管理者の思いから理念を必要時に話し合う時間を意識して取っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会行事には準備段階から参加している。また非常災害時に備え、町内会と協議の上で町内防災無線の中継地を担っている。都市部の性格上、元々町内会活動が希薄のことも合わせ、濃密な関係性とは言い難いかもしれない。	町内会に属しており、防災無線の中継地の役割を担っている。近所の公園と教会へはたびたび散歩に出かけることで、子供や近隣の人との会話もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人として、毎月地域の人々に向けた介護・医療講座を行っており、当ホームからも介護全般に係る講座の講師を担っている。特に認知症についての講座は中心的な役割の一つを受け持っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行事の取組み、入居状況の報告を中心に、防災や家族ニーズへの取組み相談など、幅広く意見討論を行い、サービスの向上に活用している。 例) 土日休日の家族に向けて相談窓口の日を設けた、次月行事予定をハガキで家族にお知らせして参加し易くした。	休日にしか来ることの出来ない家族から、土、日にも相談窓口が欲しいという要望を受け、月に2回、介護支援専門員が出勤する体制を作り、家族には毎月ハガキでその日をお知らせしている。運営推進会議が更に事業所のサービスの質向上に繋がるためにはどうしたらいいか、模索している。	開催日、開催時間の工夫など試行錯誤しながら、あるべき姿に向けて努力されています。事業所の特色や誇れること等、地域やご家族に知って頂くことで、更に連携や理解が深まり、質の向上に繋がると考えます。議題の検討、出席依頼者の人選、開催方法等を検討され、効果的な会議として定着することを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	主に法解釈や特変事例について、こまめに相談することで、トラブルの回避に利用している。また、地域包括支援センターから困難事例者の入居について相談を受けることもある。反対に、変わったことがなければ特に接点は少ない。	運営推進会議の記録を送付するに留まっている。地域を包括支援センターとは、必要時に連絡を取り合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>年間定期勉強会のテーマに必ず取り上げ、職員間の理解に努めている。 職員配置を見直す事や、センサー機器の導入を推進する事で拘束の必要性も下がり、拘束にあたると思える事例は数年間発生していないと考える。</p>	<p>年間研修計画に拘束についてのテーマを取り入れて、全職員が基本的な考え方を理解できるように取り組んでいる。「家に帰りたい」との理由で、外に出たい人については、極力一緒に散歩したり、納得されるまで付き添うようにしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>年間定期勉強会のテーマに必ず取り上げ、職員間の理解に努めている。 普段の何気ないケアの中にも、虐待に準ずる事象は必ず起きている事を念頭に置き、意識の向上を図っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を利用中の入居者もおり、実務の中でその意義や価値を実感している。 これまでに2例の制度利用者がおり、幾分か諸手続きを含めて、制度の概要も理解出来てきており、他利用者へのアナウンスも行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>事前の見学や面談に十分な時間を取り、双方の納得が得られた上での契約を心掛けている。 また、契約後も様々なニーズや疑義に対し、真摯な姿勢で取り組んでいる。 例) ターミナルケアの提供可否と要望など</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日常生活上の意見、要望は、馴染みの担当介護職員といつでも相談し合える。 また、相談窓口の日としてホーム長が在所する土日を月に2日間設定、周知する事で、平日お勤めのご家族にも意見、要望が出しやすい状況を作っている。</p>	<p>利用者には担当の職員が決まっており積極的に本人及び家族から話を聴き、話し合えるように取り組んでいる。家族の要望により休日に管理者が定期的に出勤して相談しやすい環境を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に一度のミーティングを中心に、不定期で書面での意見の収集を行い、汲み上げる為の努力を行っている。特に、ケアの方針に係る案件であれば、介護スタッフの一人一人が考えて、チームの意思が統一出来る様、意見交換には力を入れている。</p>	<p>月に一度のミーティングと不定期だがアンケートで職員の意見を出せるように工夫している。利用者の重度化に伴い、一般のお風呂での入浴が双方に負担となってきたことから、意見を出し合って筋力が低下した人も浴槽につかることが出来るようにリフトを付ける改善がされた。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人として昇給の基準を整えており、年に1度の個人面談などを通して各自が自分の評価を感じられるように取り組んでいる。また年に1度ずつ、5日間の連休取得を交代で行い、リフレッシュの機会を保っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>必ず月に1度は内部勉強会を設け様々なテーマで学習の機会を作っている。また外部や法人内他職種を講師に招く事も頻繁に行い、より専門性の高い知識・技術の向上に努めている。他職種を講師に迎える勉強会には、近隣の他事業所を招いて、合同で勉強会を行うこともある。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>市内で活動する事業者交流会の役員も務め、幅広くサービスの向上に役立っている。また町内近隣の同業者とコミュニティを形成して、合同研修会や予約情報の交換など、幅広い活動に取り組んでいる。</p>		
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事業所見学、個人面談、担当者会議など、複数回の話し合う機会を持ち、本人の要望や不安事項を汲み取るよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談や電話相談などを通して、相互の意見をすり合わせて行く他、要望調査のシートを用いて、家族が気兼ね無く不安や要望を伝えられる機会を多く作るように努めている。特に、入居初期は、本人家族共に、様々な希望や分からない事が多いので、一つ一つ真摯に向き合うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学、入居相談から始まって幾度かの意見聴取を行う中で、その時その人に合ったサービスを提供できるように努めている。実際にこちらからの勧めで他事業種サービスや他事業所の利用に結びついた例もある。最近の例では、入居相談に訪れた家族とのお話の中で、在宅生活が継続出来るヒントを見いだせた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事を共に取る、家事を共に行う等々生活を共に過ごし、苦楽を共感出来る様に距離感が近くなり、半分家族のような感覚を得ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と入居者が触れ合う機会（面会、外出、外泊など）にほとんど制限を設けないように留意しており、家族が遠慮や抵抗感を感じず入居者と同じ時間を共有しやすい雰囲気作りに努めている。またホームからの便りを始め、なるべく入居者の状況を家族にも知ってもらえる努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	例えば、知人の見舞いに行きたい入居者には、その機会を設けると同時に付添を行ったり、前住居近隣の集会へ参加する為に送迎と、段取りを整えるなど、近い家族だけでなく友人やその他関係者と、本人が望む関係性になるべく維持されるよう援助に努めている。	入居前の地域の集会や、知り合いのお見舞いを希望された入居者には、プランに位置づけ、職員が同行した。また、友人や近隣の人が買い物について立ち寄って一緒にお茶を飲めるように支援していることで毎日のように誰かが来方されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	最も大切にしている事の一つで、職員との関係性よりも、入居者同士の結びつきに重きを置き、生活、イベント、散歩など、気の合う同士で楽しめるように設定している。また社交性の低い性格の入居者と、ムードメーカーの入居者との間を取り持つなど、ユニット内の社会性を重視している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	特に、逝去されての契約終了の場合などは、自然と家族との交流が継続したり、地域住民の方々に口コミで紹介していたりするケースも幾つかある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント、モニタリングを開始する時には、必ず本人の望む生活スタイルや希望を本人に直接訊ねて、文章化するように心がけている。認知症高齢者から心底の希望を引き出すのはとても難しくはあるが、一人一人の自己実現に向け、表面部分に留まらない思いの汲み取りに取り組んでいる。	プランの作成前に、希望と今後の生活について、直接本人に聞くようにしている。答えることが困難な人については、ご家族や近い人に聞いている。「墓参りに行きたい」、「飲みに行きたい」等様々であるが、それを目的として日々のケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にこれまでの生活歴や趣味趣向をシートに記載してもらい、事前に情報を募っている。これ以外にも、日々の生活の中で知り得た細かな情報を、カンファレンス時に持ち寄り、次回のケアプラン作成に活用している。日々退屈になりがちで、防止の為にとても有効である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の介護記録を中心に、その他にもアセスメントツールの数種を活用して状況の把握を適時行い、定期的なカンファレンスにおいては、スタッフ個人の感じ方や意見を出し合っている。観察者個人の視点と、チーム全体として見た評価とのバランスを鑑み、融合を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護スタッフを中心に、医師、療法士、看護師などを交えて、様々な面からの必要性や、本人の要望を叶えるためのアイデアを出し合っている。日常の介護や健康管理の面だけでなく、生活の質を向上させる点に最も力を入れている。</p>	<p>担当の介護スタッフが中心となって、担当医師、療法士、看護職員などから情報を収集して、健康管理に留まることなく、楽しみのある生活にむけて話合いの機会を設けている。本人の願いを目標とするプランの作成をしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランと日々の記録を連動させて記録して、積み重ねを基に定期カンファレンスで評価や個々のスタッフの意見、アイデアを交換し合って、次回ケアプランに生かしている。シンプルさと継続性が重要と考えている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>例えば、入居前から好きだった趣味の教室に、継続して通えるように準備を整えたり、通常は関連のない事業者との連携を整えたりと、個別のニーズに応じて、柔軟に取り組む努力を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のボランティアセンターを始め、町内の寺院や町内会など、沢山の関係者に協力を得ながら、豊かな活動性を重視した生活の確保に努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前までのかかりつけ医に継続してかかるのも、当事業所経営母体の病院に主治医を担当してもらうのも自由に選択してもらい、同法人病院を軸に地域の医療ネットワークを活用しながら、医療との連携を図っている。</p>	<p>かかりつけ医は、本人、家族の希望に添い、選択をしてもらっているが、緊急時であれば同法人の病院で対応することも出来る。地域の医療ネットワークを活用して、適時の対応が出来る。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	同建物内にクリニックがあるので、配属の看護師が協力してくれている。また、同法人病院の医師が2週に一度、定期的な訪問診療を行っており、日頃の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人に病院があり、多くの場合はここで入院加療を行うので、医療スタッフとの連携は強い。他医療機関との連携が必要な時にも、同法人病院の医療ソーシャルワーカーが協力してくれるので、非常に円滑である。医療法人系列のグループホームとして、大きな強みである。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者とその家族に対して、入居相談時から、このテーマについて極力丁寧にインフォメーションを行っており、意思を汲み出せるよう努めている。またその時が近づけば、医師も交えて方針の相談を行い、当施設で行うべき事の確認や、家族とも理解を深め合える努力をしている。	重度化指針を定めており、入居時に重度化した時や終末期のあり方についての意向確認をしている。また、そのような状況になった時は医師より説明をし、ご家族の意向に添う対応をしている。看取り介護についての同意書の作成をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDの設置とその取り扱い講習を始め、緊急時の対応について、定期的に学習の機会を設けている。これも同法人病院の協力によって、質の高い学習機会が得られていると感じている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設内において夜間想定避難訓練を行うことと、防災センターの防災宿泊研修に、全職員の履修を目指して、順に受講を続けている。しかし地域住民との相互協力体制の構築は、まだまだ向上の余地がある。	年に1回は、夜間想定で消防署員も参加してもらい訓練を実施している。災害時には、事業所に備蓄している食糧を地域に提供も出来る体制である。また3階への地域住民の避難受け入れも視野に入れているなど、近隣住民との協力体制の強化をしていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	親密さと同時に、敬いの気持ちが両立出来るように、日頃の職員相互の交流で確認し合っている。また、画一的、事務的なケアサービスに陥らぬように留意し合っている。スタッフ個人が意見や感じたことを発信しやすく取り上げやすい人間関係が大切と考えている。	サービスの質を左右する原因として、職員間の人間関係があると管理者は考えており、お互いに注意し合える関係、困りごとが相談できる環境を作るためにも、話合いの時間を大切にしている。プライバシーに関すること、日々の声のかけ方、接し方等で利用者を敬う態度で接することが出来るように、確認しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	例えば、外出の希望があれば、即日とは難しくとも、叶えられるよう調整を行い、日常の中で家族や友人との交流も、本人から出た希望は大切にしている。認知症であっても喜びや自発性を保ち、一人の人間として生きて欲しいと考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望を受け入れられるところは極力合わせている。しかし、どうしても添えない場合もあるし、個人が集団のルールに従うことも、場合によっては一社会人として当然の事とも考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	特に女性は、外部の美容室に行く事もあったり、たまには洋服を自分で買い物に出かけたり、遊び感覚でネイルを整えたり、美容も気軽に楽しめるように心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その日に食べるものをその日にみんなで考えて、買い物に行ける人は一緒に行き、野菜一つを切るところから利用者も職員も一緒に行っている。毎日上手く行くわけではないが、やはり出来立ての食事が美味しい。	朝食と夕食は、利用者と一緒に考えて、献立をたて、買い物、調理、後片付けとその日の状態でできるだけ多くの人に関わって頂くように支援している。昼食は外部のサービスを利用しているが当日も食器洗いはされている姿がみられた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事の形態や食器を工夫して、食が進みやすい状況作りに務めている。特に水分量の確保については、利用者個別に容器やタイミングによる進み具合を試しつつ、毎日十分な量を確保出来るように、努力を続けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎日、3食後の口腔ケアを励行し、丁寧な援助を行っている。また、希望者には週に一度、訪問歯科の口腔ケアを受けてもらっている他、年に一度口腔ケアに係る部内研修を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人の排泄時間や前兆の把握に努め、極力トイレで気持ちよく排泄が行えるように心がけている。利用者一人ひとりにパターンや特徴があり、タイミングを逃さないように常に注意し続けることが重要。どんなに重度化しても、トイレには行くこととしている。	一人ひとりの排泄の特徴を把握することでオムツをしない工夫をしている。尿意がある車椅子対応の人には夜間だけベットのサイドにポータブルトイレを置き排泄の介助をする等、排泄は座ってすることに重きを置いている。そのことも尊厳を守るケアに繋がっているという考え方である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	日頃からヨーグルトや牛乳といった便秘解消に効果的な食品を摂取する機会を必ず設けたり、毎日散歩に出て少しでも体を動かすなど、予防に努めている。個別にどうしても便秘になってしまった場合は、医師と相談の上で薬剤を用いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	時間帯や人数によって、叶え切れない部分もあるが、個人の希望に沿えるところは浴っている。反対に、曜日を固定したほうが納得して入浴できる入居者もあり、個別性は幅広い。今年、浴室の改装工事も行い、スペースを広げた他、浴槽にリフトを設けて、重度化にも対応した。	個人の入浴のスタイルに、出来るだけ添うように取り組んでいるが、日時を決めてあげたほうが納得して入られる人が多いので、大まかな取り決めをして入浴を実施している。立ち上がりに不安のある人が、安心して入浴できるようにリフト取り付けたことで、全員が浴槽に入れるようになった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調や状況に合わせて、ある程度好きなタイミングで休んでもらっている。例えば、夜気に入ったテレビがあれば、見終わった後に就寝したり、朝も少し遅れて起床、朝食となったり、ある程度自由である。同時に、昼夜逆転したり活動量を低下させない為、極力自然な流れで日中活動する状況作りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	常に確実な服薬には十分な注意をしており、同時に処方の内容が確認できるように身近に処方箋を整えている。また隔週の訪問診療において逐次医師との相談をもって、過不足の無い服薬を行うよう心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	例えば入居前から熱心だった習い事に入居後も継続して通えるように段取りを整えたり、併設のデイケアの月プログラムカレンダーの中で、入居者本人に自分が参加してみたい内容を見て、選んでもらったり、生活の充実を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の買い物や買い食い、日課の散歩、近所のお地藏さん参りなど、日常の外出支援もしっかり行っている。また年に4～5回、ナイター観戦や宮島日帰り旅行など大掛かりな外出行事も積極的に行い、行き先や内容の希望は利用者からのリクエストを最重視して企画している。	年間企画の行事以外に、日常的に食材の買出し、近くのパークや教会までの散歩等で近隣の子供たちとの会話、お店で好きなものを買ってその場で食べる、など普通にその人がしたいことをしてもらう自由と楽しみの機会を多く持っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	なるべくご家族にご理解をお願いして、利用者本人が数千円程度の現金を自分で持てるようにしている。散歩中の買い食いや、入居者同士の貸し借りなどは社会性を保つためにとっても重要だと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日頃、電話をかける支援をしたり、年賀状を始めとした郵便のやり取りを援助したり、しっかり行っている。ホームの電話回線に、入居者個人宛の電話を外部からかけてもらっても、全く問題ない。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	極力悪い刺激が無い環境作りに努めているが、認知症状の度合いや個人の好みによって合う環境が大きく異なるため、共用部においては万人向けとは言い難いかもしれない。個人の居室においては、しっかりと行っている。	職員の人間関係が悪いと居心地が悪い、という考え方のもと、職員の会話や態度に特に注意している。居間のテーブルには、必要なものが直ぐに手が届くように置いてあり家庭的な雰囲気がある。また、ペットの犬が室内にいることで利用者の癒しに繋がっていると感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席配置などに気を配り、入居者同士の関係性を最重視して生活環境を整えている。ムードメーカーな入居者が活躍できる状況を作り出せれば、入居者同士で影響を与え合う効果はとても大きいと考えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なるべく自宅で使っていた馴染みのある物や写真を居室に配置して、自分だけの空間作りを行っている。やはり入居してから生活年数が長いほど、個人独特の居室の色合いや味わいが濃くなる様に感じている。	居室に家族の写真を飾ったり、室内植物を育てたり、パソコンをしたりしている。居室の清掃は職員と一緒にしようようにし、自室としての認識を維持できるように支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来る目一杯の範囲で体を動かし、家事や作業をして頭を使い、入居者同士や職員と世間話をして感情を刺激し、豊かな生活を安全に送れるよう、サポートに努めている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 あんしんホーム

作成日 平成28年1月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の停滞化	会議開催意義の向上	・町内会始め参加者の増大を働きかけ ・家族への参加働きかけと動機作り	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。